



2022年11月11日

各 位

会社名 双葉電子工業株式会社  
代表者 代表取締役社長 有馬 資明  
(コード番号 6986 東証プライム)  
問合せ先 執行役員 中村 正行  
業務管理本部長  
T E L 0 4 7 5 ( 2 4 ) 1 1 1 1

### 通期連結業績予想の修正、営業外収益および特別損失の計上に関するお知らせ

2022年5月20日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想数値の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、2023年3月期第2四半期連結会計期間(2022年7月1日～2022年9月30日)における営業外収益および特別損失の計上について、併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2023年3月期通期連結業績予想の修正

##### (1) 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	61,000	200	800	△2,900	△68.37
今回修正予想 (B)	60,000	△2,000	△500	△3,900	△91.94
増減額 (B-A)	△1,000	△2,200	△1,300	△1,000	—
増減率 (%)	△1.6	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (C) (2022年3月期)	53,450	△1,863	△654	△2,668	△62.92
増減額 (B-C)	6,549	△136	154	△1,231	—
増減率 (%)	12.3	—	—	—	—

##### (2) 修正の理由

###### 【売上高の減少要因】

電子デバイス関連事業において、タッチセンサーでは、顧客における半導体をはじめとした部材調達難による納期の延期や中国でのロックダウンによる生産調整の影響を受け、また、蛍光表示管では、事業撤退に向けた受注残を消化する活動をしてまいりましたが、半導体等の不足の影響から計画どおり生産・販売ができず、前回予想より減少する見込みです。

### 【営業利益の減少要因】

電子デバイス関連事業では、売上高の減少による操業度の低下に加えて、半導体等の部材調達難を回避するために原材料の先行手配をしたことにより棚卸資産が増加し、在庫関連損益が悪化しました。

生産器材事業では、鋼材価格の上昇に対し販売価格への転嫁を進めましたが、度重なる価格の上昇に対する更なる販売価格への転嫁に遅延が生じたことに加えて、海外子会社で貸倒引当金を計上いたしました。

このような第2四半期連結累計期間までの状況を踏まえ、第3四半期連結会計期間以降では自社における部材調達環境の改善や適正売価政策の継続に尽力するものの、エネルギーコストの高騰や円安の長期化、市況の鈍化などが見込まれることから、通期の営業利益は減少する見込みです。

### 【経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の減少要因】

営業利益が減少したことから、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は減少する見込みです。

なお、第3四半期連結会計期間以降の想定為替レートを1米ドルあたり125円から140円と円安方向に修正したことから為替差益は増加する見込みです。

以上のことから、2022年5月20日に公表いたしました2023年3月期通期の連結業績予想を修正いたします。

なお、第3四半期連結会計期間以降の為替レートは1米ドルあたり140円を想定しています。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報を合理的であると判断する一定の前提に基づいて算出しており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、当社製品の需給の急速な変動、米ドルを中心とした対円為替相場の変動および日本の証券・株式相場の変動など様々な要因により異なる場合があります。ご了承ください。

## 2. 営業外収益の内容

第2四半期連結会計期間において、為替相場の変動により為替差益395百万円を計上いたしました。なお、本金額は2023年3月期第2四半期末時点での為替相場により算出したものであり、今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。

## 3. 特別損失の内容

電子デバイス関連事業および生産器材事業において、事業環境および今後の見通しを勘案し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討いたしました。その結果、固定資産の一部について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第2四半期連結会計期間において、298百万円を減損損失として計上いたしました。

以 上